

氏名	山崎 賢士
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 5885 号
学位授与の日付	平成31年3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Is there an obesity paradox in the Japanese elderly population? A community-based cohort study of 13,280 men and women (日本人高齢者における肥満パラドックス現象の検証－13,280人の男女を対象としたコホート研究)
論文審査委員	教授 和田 淳 教授 荻野景規 教授 四方賢一

学位論文内容の要旨

一般に、肥満は様々な疾患のリスク因子と認識されており、その有病割合の増加は世界的な健康問題である。近年、心不全患者や高齢者などの特定集団においては、肥満が生命予後を悪化させず、むしろ生命予後を改善させている可能性が報告された。この現象は「肥満パラドックス」として注目を集めている。今回我々は、日本人高齢者において肥満パラドックス現象がみられるかを検証した。1999年に立ち上げられた静岡県的一般高齢者65-84歳を対象とした地域コホート13,280人を10年間追跡調査したデータを後ろ向きに解析した。健康関連有害事象とBody mass index (BMI)の関連が欧米人とは異なることを考慮し、本研究ではアジア人に適切であるとされているBMI ≥ 27.5 kg/m²を肥満と定義し、標準体重に対する全死亡ハザード比(HR)を推定した。肥満の全死亡HRは0.86(95%信頼区間, 0.62-1.19)と、統計的には有意ではないが、やや生命予後を延長させている可能性が示唆され、肥満パラドックス現象がみられた。年齢・性別で層別分析した結果、女性よりも男性において肥満パラドックス現象がみられることが示唆された。

論文審査結果の要旨

慢性心不全患者、慢性閉塞性肺疾患患者、高齢者などの特定の集団において肥満が生命予後を改善させる「肥満パラドックス」が知られている。

本研究では静岡県的一般高齢者65-84歳を対象とした地域コホート13,280人を10年間追跡調査することによって、肥満の全死亡ハザード比が0.86と算出され、肥満パラドックスの存在が日本人高齢者において確認された。

委員からは、肥満をBMI 27.5 kg/m²以上とする妥当性について質問があった。わが国の肥満の定義である25.0 kg/m²以上とする方法もあるが、WHOより推奨されアジア人に適切であるとされているBMI 27.5 kg/m²以上を採用したと回答した。さらに死因別の解析については今後の検討課題であると説明した。

本研究は「肥満パラドックス」の存在を日本人高齢者地域住民で明らかにした研究であり、疾患の予防や健康寿命の延長に関連して、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。